

# 東北大の賀来満夫教授が大分市で講演

「せまりくる感染症の脅威—感染症危機管理の重要性とその意義」と題して、東北大学大学院感染制御・検査診断学分野の賀来満夫教授(別府市出身)が大分市のコンバルホールで講演した。NPO法人水と空気環境リサーチ主催。賀来教授は感染症危機管理の第一人者で、WHO(世界保健機関)アドバイザー専門家、厚生省院内感染対策中央会議委員などを務める。講演要旨は次の通り。

どの国も安全でない  
WHOは1996年、「われわれは今や地球規模で感染症による危機にひんしている。もはやどの国も安全ではない」との警告を出した。実際に、レジオネラや新型インフルエンザなど新たな病原体による感染症、MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)など薬剤耐性菌による感染症、世界で年間170万人以上が死亡している結核、炭疽菌などに由来のバイオテロなど、われわれは感染症の新たな問題と脅威に直面している。

東南海・南海地震の発生が大分県でも懸念されているが、震災時にも感染症は必ず発生し、問題となる。避難所では多数の人々が狭い所で生活するため、集団感染のリスクが高まる。食べ物や水などの配給が滞り、栄養状態の悪化や寒さなどによる体力や免疫機能の低下、口腔ケアが十分にできないことによる嚥下障害などのため、高齢者や身体の不自由な人、小さな子どもが感染を起こしやすい状態となる。

東日本大震災の際には、避難所でインフルエンザや感染性胃腸炎(ノロ)など



講演する賀来満夫東北大学大学院教授

# 感染症の脅威、地球規模

虫歯ケアの最新潮流  
■虫歯が  
■穴が  
■穴が  
■歯に  
■歯質

フッ素や...

ICLAS導入に積極的  
に取組んできた日本ヘル  
スケア歯科学会代表で杉  
山歯科医院(千葉県八千代  
市)理事長の杉山精一さん  
は「歯に空気を当てて乾  
している。

がん患者の在宅療養支援  
の現状と課題を話し合う医  
療スタッフ向けのシンポジ  
ウムが9日午後6時から大  
分市の県医師会館で開かれ  
る。

## 国など正確な情報を 個人の予防徹底も重要

の集団感染例が発生した。また宮城県では、前年は1年間で3例しか起こっていない破傷風が震災後1カ月間に高齢者を中心に6例も起きた。

路や感染予防のポイントなど、さまざまな感染症の情報を知り、共有化していくことが非常に重要となる。

そのためには、感染症や感染対策の専門家の組織と地域社会全体とのネットワークが中心となって「東北感染症危機管理ネットワーク」が一人一人の気配りで東北六県では、東北大が中心となって「東北感染症危機管理ネットワーク」

## 感染予防の基本は 手洗いから。



ヒトは手をつかう

正しい手洗いの方法

手洗いによる微生物の減少効果

1.流水を流しながら手を濡らす	2.手の平をこすり合わせる	3.指の指先をこすり合わせる	4.手の甲をこすり合わせる	5.親指をこすり合わせる	6.手のひらをこすり合わせる	7.手首をこすり合わせる
-----------------	---------------	----------------	---------------	--------------	----------------	--------------

厚生労働省 東北厚生局 東北大学病院感染管理室

最も基本的なものであることを再認識してほしい。

感染症にかからない、うつさないためには、一人一人がこのようなことを守り、できるだけリスクを下げることが大切。特に医療現場や学校、職場、家庭などでは感染のリスクが高いことを理解し、予防を徹底することが重要になる。感染予防の徹底は健康増進の最も基本的なものであることを再認識してほしい。